

第7回多治見市第7次総合計画策定市民委員会 会議録

日 時	平成27年6月29日（月）午後6時00分～午後8時00分
会 場	多治見市役所駅北庁舎 4階第3会議室
出席委員	古池嘉和委員（会長）、木下貴子委員（副会長）、飯野真理子委員、 宇佐見信一委員、奥村崇仁委員、隈元智子委員、竹本幸二委員、 堀尾憲慈委員、前田市朗委員、宮村登美子委員、山田輝幸委員 若尾由美江委員 （委員15名中12名出席）
欠席委員	伊藤浜三委員、小池雅子委員、吉田有記委員、
事務局	水野企画部長、桜井課長、岩島課長代理、長谷川課長代理、 水野総括主査、山内総括主査、御前主査、林主査
傍聴人	3名

会議録要旨

1 開会あいさつ（古池会長あいさつ）

2 議題（1）：第6回市民委員会会議録（案）について

事務局 資料1「第6回市民委員会会議録」について事務局から説明

会長 修正すべき点等あれば指摘を求める。

《なし》

会長 第6回市民委員会会議録とする。

議題（2）：基本計画事業（素案）について

※ グループ討議

事務局 基本計画事業が多いため、政策の柱ごとのグループに分かれ意見を伺いたい。

1 グループ 安心して子どもを生み育てられるまちづくり

- ・ 安心して子どもを産むことができるという点で、産科体制の充実をこの柱でもうたうべきではないか。
- ・ 計画に軽重をつけて、重点事業は確実に実行するなどメリハリをつけて取り組んだ方が良い。全部やろうとすると共倒れになる。
- ・ 5 特別保育・16 ファミリーサポートについて、一時預かりが利用しにくいと聞く。ファミサポは700円/Hで金銭的に専業主婦は利用しづらい。また、利用制限はある程度必要だが、下の子の出産直後など体力的・精神的にしんどいときなどでも利用しづらい。祖父母等頼れる人が近くにいない人も多く、利用しやすい制度となる必要があると思う。
- ・ 12 子どもの権利について、条例があることは多治見市の誇りであり、実際どのよ

うに生かしていくのが大切。くらし人権課の出前講座はわかりやすく権利を学べたので、もっと広く展開できるようにしてほしい。

- ・ クラブ指導者の資質向上が課題。人権学習を含め強制的に研修を受けるという視点も大切。
- ・ 18 青少年健全育成について、具体的に何をやるかわかるように表記すべき。
- ・ 21 地域の人財を活かした放課後等の子どもの活動場所の確保に関連し、子どもの自由な遊び場がない。公園も遊びを制限されることが多い。安全安心な遊び場として校庭を利用できないか。またそこに地域の人財を活用できないかと思う。
- ・ 22 30 人程度学級について、3 人程度となっているので修正を。また市費で非常勤講師を配置しても、通常の教員と比べ業務に制限が出ると聞く。そのあたりも含めて拡充しないと、あまり意味がない。
- ・ 26 インクルーシブ教育には期待している。幼保から学校に上げるときに手厚かった支援がぶつ切り切れることがあるので、解消すべき。
- ・ 28 土曜学習講座の実施にあたって、高齢者活躍の視点も加えてほしい。
- ・ 郷土愛を育むための事業が土曜学習以外にもあると良い。学校カリキュラムに落とすことも必要。陶磁器に触れるなど文化の視点、また議会を観るなどのまちを知るといった視点での学習を継続して取り組むことが必要。
- ・ 子どもの自立のために社会で必要な知識（税金、年金を納めること、お金のこと）を学べるようにすることも必要。
- ・ 31 地域人財の学校運営への活用 に関連し、通学路の整備の視点と不審者対策の視点（シニアボランティアの連携を含む）もしっかり盛り込んでほしい。
- ・ 36 学校 I C T 設備について、教員のリテラシーも重要。設備整備には人的側面も併せて考える必要がある。

2 グループ 健康で元気に暮らせるまちづくり

- ・ 高齢者を弱者としてみない。既存施設を活用し高齢者自身の能力や知識を提供できる仕組みをつくる。それにより、高齢者において、雇用による経済活性化、防災面での活躍、子育て分野での支援など、1つの分野のみでなく様々な分野に繋がっての活動が期待できる。
- ・ バリアフリーの推進計画をみると、きれいにまとめられ過ぎている。人の意識は見えないため難しいところではあるが、見える化が大切である。例えば、実際に障がい者がバリアフリー設備を使っている姿を見る、障がい者とコミュニケーションをとることが重要である。バリアフリーの推進により、高齢者や子どもにも優しく活躍できる環境となる。
- ・ 障がい者の就労について、身体や知的の障害に比べ精神障害は就労移行は困難である。ハローワークからも断られるケースが多い。
- ・ 身体障害者のグループホームが、近隣にない。そのために、親元から離れてしまうケースや、家族ごとグループホームの近くに住民のために引っ越しをするケースもある。
- ・ グループホームの整備は、定住促進や経済の活性化にも繋がってくるのではないかと。

福祉施策は、多くが定住促進につながる。

- ・障がい者の相談体制は、まだまだ足りていない。計画相談は、数か月待ちである。
- ・保健師の地区担当制を、もっと活動をアピールしてほしい。
 - ・子どもの体力低下に関係し、地域の公園の規則（許可）については、その地域の判断に委ねることはできないか。

3 グループ にぎわいと活力のあるまちづくり

- ・全体的に何を実施するか分かりにくく、内容も想像できない。市が進めようとしている重点項目などを例示するなどの工夫が必要ではないか。
- ・第7次総合計画における目玉事業やポイントを前面に出さないと、市の方向性、政策展開の意図があいまいではないか。優先順位も考慮すべき。
- ・基本計画事業の並び順でも見る側の捉え方が変わってくる。順番も注意すべき。
- ・基本構想では“わ”の理念がうまく表現されているのに、基本計画までくると見えなくなる。もう少し意識して事業名に表現できるといいのではないか。

4 グループ 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり

- ・甘原町で住む場所を探す人もあるが市街化調整区域で新築が出来ないため、都市計画による規制・誘導の中で人口減少対策として緩和することを検討して欲しい。
- ・公共交通の充実はぜひ実施してほしい。
- ・空き家は全国的な課題であり、本市も対策を講じる必要がある。解体でも相当な金額がかかるため、そのうち国策で何らか取り組まれるだろうが、多治見市として解体補助も必要ではないか。
- ・空き家を市が買い取り、リフォームを行い、多治見に住みたい人に売る方法は考えられないか。
- ・市営住宅の統廃合は推進してほしい。市営住宅が不足する部分は、上手く空き家を活用して対策できないか。
- ・防火水槽がどこにあるのかわからない。道路内の防火水槽は蓋が黄色で塗られわかりやすくなっている。ものによっては、剥げてきているところがある。
- ・消防団は強制するものでないため入団は難しい。今は家族からの推薦もなくなっている。どこかの市町村では市役所職員が強制的に入団することになったニュースを見た。まずは地域の集いから若者に声を掛け、地域の年代が近い者同士が知り合い、溶け込んだ頃に消防団に勧誘する。その後、地域を引っ張る人になれるか。
- ・小さい児童遊園は、使われていない公園も多く、地元での維持管理も難しいため、遊具をなくしたほうがいいのか。
- ・需要がなく管理されていない児童遊園は廃止してもよいのではないか。
- ・地元では廃止に対して反対の意見も少なからずあるだろうが、地域全体の意見を聞けば廃止できるのではないか。廃止した公園の土地代で新たな公園を建設してはどうか。

- ・ 可児市のふれあいパーク緑の丘や小牧市の四季の森のような公園に人は集まるのではないか。
- ・ 生活道路の渋滞は困る。ぜひ、渋滞対策は進めてほしい。特に、県道多治見八百津線の小名田町から市内に向かってくる道路は渋滞する。それを避けて高田町の街中を抜けるが同じようなことを考える人が多く、中でも渋滞が発生してる。
- ・ 多治見市は市街地に緑が多いのが魅力である。緑化事業は今後も進めてほしい。
- ・ 潮見の森は魅力的な公園であるが、市民にも知られていない。もっとPRを行う必要がある。
- ・ 高根山は枯れ木も多く、今のまま利用するのは危険である。もっと整備する必要がある。
- ・ 深山の森は、散策路を付けたり中心に芝生広場などを整備すれば魅力的な施設になるのではないか。
- ・ 市内に子どもを連れて行きたくなる公園が少ない。太平公園のような草の広場があるとよい。

5 グループ 市民が互いに助け合い学び合うまちづくり

- ・ 公民館など、生涯学習を行うことができる場所が必要である。
- ・ 生涯学習活動に、学校の空き教室を利用できないか。
- ・ 生涯学習の活動場所を探している団体が多くいるので、空き家などを活用できないか。
- ・ 元気な高齢者の地域での活躍に期待したい。
- ・ 今まで地域活動にあまり参加していなかった退職者が、地域活動に参加する機会を提供する必要がある。生きがいつくりにつながる。
- ・ 高齢者のキャリアを地域に還元させたい。
- ・ 参加のきっかけとしては、防災活動はふさわしいのではないか。
- ・ 各地域で自主的活動が行われるよう、地域のリーダーを養成する。
- ・ ボランティア活動を活発化させるため、ボランティア団体同士のマッチングに力を入れるべき。
- ・ 自身の知識や技術をいかしたいと考えている市民を、NPOやボランティア団体に紹介する仕組みが必要。
- ・ ボランティア活動に興味のある市民はたくさんいるので、気軽に参加できる仕組みが必要。
- ・ ボランティア活動に関する求人情報を取りまとめて、広く募集してみてもどうか。
- ・ NPOの活動を継続させるための取組が重要である。
- ・ 人員、資金で問題を抱えているNPOは多く、支援が必要。
- ・ NPOと企業、行政のマッチングを推進し、NPOの資金面の問題解決につなげる必要がある。
- ・ 各種事務手続きに不慣れなNPOが多いため、助言・指導など行政からの支援が必要。

《全体共有》各グループの議論要点発表

- 1 グループ 安心して子どもを生み育てられるまちづくり
委員 第7次総合計画において広く浅く項目あげ事業実施を行うのではなく、優先順位をつけ、これだけはやり遂げる事業を作る必要がある。
期待すべき効果に「多治見らしさ」の向上を追加する必要がある。
この分野では、子どもを生むところから計画をあげてほしい。特に東濃地域は産婦人科医不足があるので、出してほしい。
学校教育において、施設や備品などの整備も必要だが、それらを使いこなせる「人財」の育成も必要である。
子どもの権利は重要であるため、さらに広める事業を実施してほしい。
「郷土愛」を育成することも必要である。
教育に生きていく力、例えばお金の使い方や税金の納め方などを教える必要があるのではないか。また、市議会の見学や埋もれている多治見の魅力を学ぶ機会が必要である。
- 2 グループ 健康で元気に暮らせるまちづくり
委員 「7つの基本的課題」について、●や○のつけ方に疑問がある。たじみ健康ハッピープランや認知症対策、高齢者の見守りなどは、地域力の向上があげられているが、定住促進にも寄与するのではないか。
また、幼少期からの豊富なスポーツ体験や協議スポーツ活動支援、夜間休日医療体制の充実は、子育て環境の整備であり、少子化対策にも寄与するのではないか。
第7次総合計画では、多くの課題に効果が期待できる事業を実施してほしい。
- 3 グループ にぎわいと活力のあるまちづくり
委員 「ワンストップサービス」や「観光誘客に向けた環境」など、全体的に基本計画事業名だけではどのような事業内容かわからない。わかりやすい基本計画の作成が必要である。
1グループの意見にもあったが、7次総ならではの事業は何なのか。ひとの「わ」や女性といった視点が必要ではないか。
具体的な施策として、働く女性同士がつながる場を作る必要がある。また、観光においては観光モデルコースを作る必要がある。
- 4 グループ 安全・安心で快適に暮らせるまちづくり
委員 幅広い柱であるが、網羅されていると感じた。
都市計画による規制・誘導は、緩和を含め、考えていただきたい。また、公共交通機関の充実を期待している。
全国的にも課題である空き家対策は、取り壊し補助金などを考えているようだが、広く議論をして効果的な事業を実施してほしい。

渋滞対策は順序付けを行い、道路整備を行ってほしい。

市内に小さい公園が多く、管理にお金がかかっている。廃止を含め検討していただきたい。なお、市民は可児市のふれあいパーク緑の丘や小牧市の四季の森のような公園を求めている。

風の道構想は、民間の力が必要であるため、ぜひ活用できる事業を実施してほしい。

5 グループ 市民が互いに助け合い学び合うまちづくり

委員 生涯学習をどのように行うかが重要である。高齢者に活躍していただくことができる事業である。それに加え、場所や機材などをどうするか。必要なお金をどう調達するかが

行政とNPO、NPOとNPO、NPOとボランティアを行う人をどのように連携させるかが必要である。

多治見市は全市的な災害が少ないため、市民の防災意識が低い。

地域は高齢化により弱体化している。いかに克服するかが重要である。それには命に関わる防災活動が取っ掛かりになるのではないか。

会長 今回の資料は、各事業課からあげられた生のデータを提供いただいたため、全体的にひとの「わ」などの第7次総合計画の基本構想に距離感を感じる。これから、内容や基本計画事業名、並び順などの修正を行う中で、第7次総合計画ならではの事業が出てくることを期待する。

事務局 担当したグループの施策に限らず、全体を通して気づいた点があれば、事務局に連絡ください。

3 その他

事務局 第8回多治見市総合計画策定市民委員会は7月21日（火）に開催する。
第9回多治見市総合計画策定市民委員会は9月3日（木）に開催する。

<会議終了>